

## 松川は旧神通川の名残

松川はもと神通川であった。松川を地図で見ると富山の市街地を大きく蛇行しながら流れている。これはかつて、神通川が富山の街中を蛇行して流れていたことの名残である。蛇行した川は何度となく氾濫し甚大な被害をもたらしてきた。そこで、明治 30 年代に蛇行部分をショートカットして直線化する工事が実施された。神通川の流れが完全に直線になったのは大正 3 年である。水が流れなくなった旧川道部分には「神通川廃川地」が出現した。この廃川地を、富岩運河の建設工事で発生した大量の土砂で埋立て、新市街地とした。富山県庁、富山市役所、またNHKや電気ビルなどが建つ辺りは、このとき埋め立てられた廃川地である。そして、この埋め立て工事で残された旧神通川の流れが松川である。

## 人々の暮らしの中にある松川

富山県土木部河川課を訪ねた。「松川沿いの歩道は都市計画で公園と定められており、県では富山市とも連携しながら川に沿った道を市民の憩いの場として整備しています。また、松川がかつて神通川であったという歴史を伝えるようにもしています」と県の担当者は話す。松川では昭和 50 年代後半に、水質浄化のために神通川の支流の土川から浄化用水を導入する事業を実施している。その結果、周辺地域の下水道整備とも相まって水質が向上。きれいになった松川では、市民が環境保全活動に取り組んでいる。松川は“ふるさとの川”として富山市民に親しまれている。

## 富山市下水道のシンボル事業

環境が保たれている松川。その松川をより美しく、そして周辺の浸水被害を減らそうという事業が進んでいる。富山市上下水道局が進める松川貯留管建設工事だ。「富山市の下水道は分流式で整備されてきたのですが、松川周辺の古くからある市街地は、昭和 27 年から下水道整備がされたこともあり合流式下水道となっています。そのため、松川にも雨天時越流水が流れ込んでいる状況です。また、近年、富山市でも局地的集中豪雨が発生し、市中心部でも浸水被害が発生しています。そこで平成 24 年度から約 6 年をかけて貯留管を整備することにしました」と富山市上下水道局の担当者。その前には、洗練されたデザインの事業紹介パンフレットがある。松川貯留管建設工事が、富山市下水道のシンボリック事業である様子が伝わる。

## 松川と貯留管工事現場を訪ねる

新緑に覆われる松川。川沿いには、富山城址や高志の国文学館もあり、さらに緑道には多数の彫刻も置かれている。また、透き通る水面には大きな鯉の姿も見える。周辺の落ち着いた街並みと、美しく保たれた水環境。松川を歩くと、富山の文化の一端に触れることができる。松川のすぐそばに、松川貯留管工事用のシールドマシン発進基地がある。貯留管の内部を案内してもらった。松川貯留管工事の一般市民現場見学会には 80 人の定員に対して 1,384 人もの応募があったという。松川周辺の街並み。多くの市民が見学に訪れた貯留管の建設工事。地下深くに長く伸びる貯留管の中には、松川とこれからも共にありたいと願う人々の思いが満ちていた。



写真左より、富山大橋と神通川、松川沿いの緑道、建設中の松川貯留管の内部